①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・1/10の位までの数どうしの筆算ができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・0.7は，0.01が70このように数をとらえている。

≪学習問題≫

0.7ｍと0.35ｍの2本のテープを合わせると，

全体のテープの長さは，何ｍになりますか。

教材研究ノート№4-A-4

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 筆算で計算したいけど，どのように書けばいいのかな。→0.01がいくつ分と考えれば筆算を使えそうだ。

②学習課題:長さの単位ｍを㎝に直したり，0.01がいくつあるか考えたりして，0.7＋0.35の筆算の仕方を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究: 0.01がいくつ分と考えて筆算の仕方を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「それぞれの計算の仕方で共通点はなんだろう」

→「70＋35と考えて計算している」

④共同追究後半（思考を深める）

「筆算で表すとき，0.7をどこに表せばいいのだろうか。」

→「1/10の位までの小数は1/100の位が0と考えれば0.7＝0.70になるから，小数点をそろえて表せばよい」

「位をそろえれば整数のたし算と同じようにできる」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・0.7＝0.70のように，1/10の位までの小数は，1/100の位が0と考えればよい。

・小数の筆算は，位をそろえれば整数の筆算と同じようにできる。

⑥定着･活用問題

(1) 0.64＋0.26の計算をして，答えの表し方を

　考えましょう。

(2) 次の計算を　ひっさんでしましょう。

① 0.74＋0.57　　② 0.85＋0.5　　③ 2.6＋0.75

0.64

＋0.26

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・量感を伴った計算にするために，数値を長さで与えて，たし算の場面を設定する。

・計算をする際には，答えの見当を付けさせる習慣を育んでいく。

・筆算で表すときに，数の末尾をそろえてしまう子どもの考えや位をそろえると空位ができてしまうことに戸惑う子どもの考えを大切に位置付ける。

【板書計画】